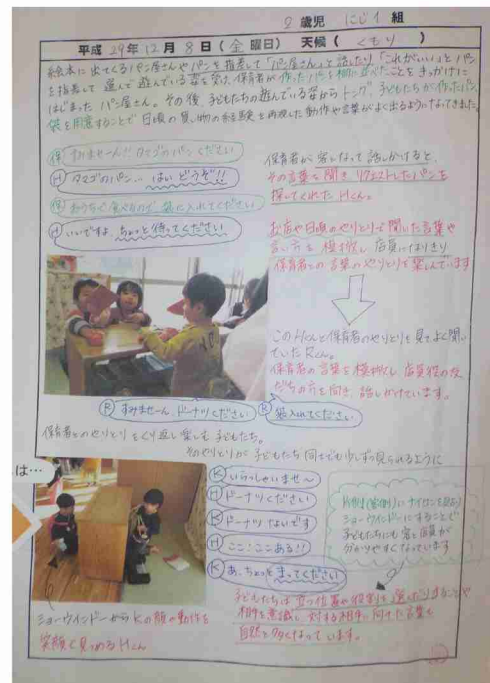


2歳児 にじぐみ 12月 「ドーナツください」



遊び(活動)の展開

絵本に出てくるパン屋さんに興味を持つ子供の姿を受け、保育者が作ったパンを棚に並べたことをきっかけにパン屋さんが始まった。トング、子どもたちが作ったパン、袋を置くと、日頃の買い物の経験を再現した動作や言葉がよく出るようになり、保育士とのやりとりを繰り返し楽しんでいる。店をショーウィンドウの形にすると、客と店員に分かれて子ども同士でのやりとりが見られるようになってきた。



保育者の関わり(ねらい、意図、環境)

- ・当初、やりたい遊びを1人ひとりが十分に楽しめるように全員分のマイトングと、どこからでも欲しいものがとれる棚を用意。パン屋の場所、トングの使い方を子どもたちが気付けるような言葉かけを保育者が意識して行った。子どもの遊ぶ姿から、さらになりたい役割を選び、対する相手の存在を意識でき、さらにやりとりが増える環境づくりをするために、子どもたちに店の中(店員側)が分かりやすく、客側からでは1人で完結しないようショーウィンドウにした。
- ・店員の目印ともなるよう、トングの数を減らし、パン屋のそばに常時置くようにした。

考察(育ち・学び)

- ・子どもたちは、立つ位置や役割を選んだりすることで身のまわりに様々な人がいることに気付き、徐々に他の子どもと関わりを持って遊ぶようになった。(人間関係)
- ・相手を意識し、対する相手に向けた言葉も多くなり、ごっこ遊びをする中で言葉のやりとりを楽しんだり、保育士や友達の言葉や話に興味や関心をもって聞いたり話したりするようになってきた。(言葉)

これからの保育

- ・子どもたちの遊ぶ姿から「あつい」「やきたてです」などの言葉も出ているので、パン作りができたり、オープンで焼いたりなどができる環境を整え、さらにやりとりができるようにしていく。

5歳児 やまぐみ 1月 「赤れんが倉庫 vs 夕潮台公園 ~子どもたちが出した答えは~」

遊び(活動)の展開

劇発表会に向けてお話の内容をみんなで話し合う中、最後のシーンをどこにするか2つの意見(赤れんが倉庫と夕潮台公園)が出て、どちらにするか話し合ったが、決まらなかったため実際に見に行き、その場で話し合った。



保育者の関わり(ねらい、意図、環境)

1つの目的に向かって共有しながら話し合いを重ねているが(赤れんがが夕潮台)どちらかに決めることができず、実際に現地に行くことを提案。そこでお話の世界をイメージし、想像を膨らませた子ども達の姿を受け、その場で思いを伝えあえるようにした。より具体的に豊かにイメージが広がること、子どもが納得して主体的に決定することでやま組ならではの意欲的なお話づくりへと展開することを意図した。

考察(育ち・学び)

話し合う場面では、一人ひとり違った考えがある中、自分の思いを伝えたり友だちの考えを聞き、理解したり、共感したり、折り合いをつけたりしようとする「言葉による伝え合い」や「道徳性の芽生え」が見られる。また、現地に出かけたことでイメージをより豊かにし、その場で話し合う中で、新しい考えを生み出す喜びを味わい、自分達の考えをよりよいものにしようとする「思考力の芽生え」が見られる。次へのお話の展開へ向け、共通の目的を持ち、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感を持ってやりとげられるようになる「協同性」の育ちが見られる。

これからの保育

この体験をもとに、よりリアルな劇中での動きやセリフづくり、道具作りをすすめていく。また、ビデオや他クラスの意見などを活用し、自分達の姿を客観的に見て、新たな気づきを深める手立てにしたりする。その中で、年長児としての力を信じ、行き詰まったり迷ったときには時間をかけて話し合いの場を持ち、子どもが納得し自信を持って進めていけるよう、そして今までの様々な活動や体験の中で身につけた力が毎日の生活や協同的な遊びの中で発揮できるよう援助していきたい。

幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿	健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意識の芽生え	思考力の芽生え	社会生活との関わり	自然との関わり 生命尊重	数量・図形、文字等への関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現
----------------------	--------	-----	-----	--------------	---------	-----------	--------------	------------------	-----------	----------

2歳児 ばら1組 12月 「こおりができた！」

遊び(活動)の展開

家の外のバケツに氷が張っていたことを教えてくれたM。経験のない子達は「家の外に氷？」と不思議そうに話を聞いていた。

保育所で氷が張っているところを探しに行くが見つからない。そこで、Mが家で見たと同じような容器に水を入れて外へおいてみることにする。

Mと一緒におもちゃの中からいくつか容器を選び、水を入れ保育室のテラスに用意する。

残念ながら、翌日氷は張らなかったが、数日後、大変冷え込んだ朝、用意していた容器に氷が張った。

Mは毎朝、家で氷が張っているか確認しており、この日は「できていたから保育所にもきつとできている」と期待を胸に登所してきた。

すぐに確認をしに行く。「見て！氷できった！」

とのMの興奮した声に、他の子ども集まる。

それぞれ氷を触り、気づきや驚き、感じたことを口にする姿が見られた。

2歳児 中保育所発行 H29.12.27

先日M君が登所するなり、「Mのお家には凍ってたりバリアリってした」と興奮気味に教えてくれました。そのことを、クラスみんなにも話をしてあげましたが、経験のない子たちは、「家の外に氷？」と不思議そうにM君の話を聞いていました。そこでM君と水づくりをするのでM君の家ではバケツに水が張っていたとのこと。園庭に行き、おもちゃの中からいくつか容器を選び、どれくらい氷を入れたらいいか相談している。K君も「やりたい」とやってみて、一緒にやることに。「いっぱいとかちよつととかにしよう」というM君の考えで、水の量に気をつけてセッティングしました。

次の日は残念ながら氷が張っていませんでしたが、数日後の大変冷え込んだ朝、準備した容器に氷が張りました！M君は毎朝、家で氷が張っているか確認しており、この日は「出来ていたから保育所にもきつとできている」と期待を胸に登所してきました。すぐに確認をしに行く。「見て！氷できった！」M君の興奮した声に、他の子どもも集まってきました。一緒に準備したK君も触ってみて「やりたい！」と目を丸くしています。それぞれ氷を触り、気づきや驚き、感じたことを口にする姿が見られました。氷が入った容器を準備していることを知っている子どもたちも、氷ができたという出来事を通して、M君の登りが、寒い日は氷が水になるという発見、気づきを共有しました。

それぞれの子どもが、体験の中で、不思議やおもしろい、すごいといった気持ちを感じていたり、その感動に気づき、他の子に発見し、感動の共有に繋げることが大切だと思っています。現在M君の発見の出来事は、園庭タイルを準備しようかと新たな発見を見せています。子どもたちと発見の喜びを共有し、喜びや気づきを共有していきたいと思っています。

みて！こおりができた！

みんなどんどん凍るやん！

さきまで20度やったのに、針がどどん動いて10度くらいまで行ったわ！

マイナスー！？それみんな凍るやん！

今日、めっちゃさむいなー

先生、お部屋にあるやつで調べてみたい！

このままずっとおいたらどうなるんやろ？

マイナスになるんやろ？

あーそっかー…じゃあ1度くらいかな？

ストープの近くは40度と50度のあいだくらいや！

それ、45度やで！

本当。氷ができていね。どんな感じがする？

かたいなあ

つめたい！

こおりなってるな

さむいでやで

何で氷になったのかなあ？

保育者の関わり(ねらい、意図、環境)

- ・冬の自然現象(氷など)に、興味・関心を持ってほしいと思い、子ども達の気づきに共感したり、言葉をかけたりした。
- ・Mの気づきを他児の興味、気づきにつなげるため、どの子からも見えて気づきやすいように保育室のすぐそばのテラスに用意した。
- ・実際に氷に触った時に、様々な感触を得られるよう、「どんな感じがする？」などの問いかけや言葉がけをした。

考察(育ち・学び)

- ・それぞれ氷を触り、気づきや驚きや感じたことなどを口にする姿は、環境領域の「見る、聞く、触るなどの経験を通して、感覚の働きを豊かにする」、言葉領域の「人の言葉や話などを聞き、自分でも思ったことを伝えようとする」、表現領域の「身体の諸感覚の経験を豊かにし、様々な感覚を味わう」という育ちにつながる。
- ・Mの興奮した声に、他の子ども集まる姿は、人間関係領域の「周囲の子ども等への興味や関心が高まり、関わりを持つ」という育ちが見られる。
- ・家のバケツに氷が張っていたことを教えてくれた姿は、環境領域の「身近な環境に親しみ、触れ合う中で、様々なものに興味や関心をもつ」、言葉領域の「人の言葉や話などを聞き、自分でも思ったことを伝えようとする」という育ちといえる。
- ・保育所で氷が張っているところを探しに行く姿、Mが家で見たと同じような容器を選ぶ姿、この日は「できていたから保育所にもきつとできている」と期待を胸に確認をしに行く姿は、環境領域の「様々なものに関わる中で、発見を楽しんだり、考えたりしようとする」という育ちにつながっている。

これからの保育

- ・引き続き、氷に十分に触れ、感触を得る体験を重ねていけるようにする。
- ・子どもの思いを聞きながら、水の中にどんぐりやモール等を入れての氷づくりを行ったり、自然の中の氷やつららを探しに行ったり、氷が割れたり溶けたりする変化を体験したり、ままごと遊びに取り入れられる遊びへつなげていく。
- ・今回のMの気づきと伝えをきっかけに、他児たちにも、自分の経験や体験を聞いてほしいという姿が見えるので、保育士は一人ひとりと関わって、一人の気づきを他児にも伝え、自分も話したいという気持ちがより育つよう関わっていく。

5歳児 さくら組 12月 「寒いって何度？」

遊び(活動)の展開

朝、中庭のテラスに出たSとK。戸外がいつもより寒いことに気づき、どれくらいなのか確かめようと温度計で気温を測る。

針がどどん下がっていく様子に驚く二人。知っている言葉を使いながらの会話。

朝の集まりの時そのことを話題にすると、他の友だちも誘い合い、いろいろな場所の気温を測りに行き、温度を紙に書いてみる姿があった。

今日、めっちゃさむいなー

先生、お部屋にあるやつで調べてみたい！

このままずっとおいたらどうなるんやろ？

さきまで20度やったのに、針がどどん動いて10度くらいまで行ったわ！

マイナスになるんやろ？

あーそっかー…じゃあ1度くらいかな？

ストープの近くは40度と50度のあいだくらいや！

それ、45度やで！

マイナスー！？それみんな凍るやん！

マイナスになるんやろ？

あーそっかー…じゃあ1度くらいかな？

ストープの近くは40度と50度のあいだくらいや！

それ、45度やで！

保育者の関わり(ねらい、意図、環境)

- ・気づいたことを友だちと一緒に生活経験を生かして探究する姿を、時間や場所を保証しながら見守る。
- ・「このまま置いといたら…」と、さらに考えを深め、新たな発見をもたらすような質問をして興味を広げるようにした。
- ・温度計を常に保育室に置き、生活の中で温度や、その変化に気づけるようにしていた。
- ・朝の集まりの場でクラス全体に伝えることで、他児に広げ、発見を共有するようにした。

考察(育ち・学び)

- ・友だちと会話をしながら、温度計を使い体感した冬の寒さを知ろうとする姿は、身近な事象に積極的にかかわる中で、物の性質やしくみなどを感じ取ったり、気づいたりし、考えたり予想したり工夫したりするなど多様な関わりを楽しむようになる「思考力の芽生え」、友だちと関わる中で互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようとする「協同性」につながっている。
- ・マイナスは凍るなどの表現は、自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探究心を持って、考え、言葉などで表現しながら身近な事象への関心が高まる「自然との関わり」につながっている。
- ・また、温度計で測り数字で確認し「〇〇度」と表現している姿は、遊びや生活の中で、数や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気づいたりし、自ら必要感に基づきこれらを活用し、興味や関心、感覚をもつようになる「数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚」の育ちが見られる。
- ・また、友だちや保育者と思いや考えを伝えたり受け止めたりしながら遊びをすすめている姿からは「言葉による伝え合い」も見られる。

これからの保育

- ・戸外や室内などいろいろな場所で、温度を計ってみる。それを視覚的にわかりやすく地図や写真や温度計の絵などで掲示してみる。
- ・同じ場所でも、日にちや時間・天候による温度の変化があることに興味を持ち、またその原因を探究できるようにする。
- ・「家の中で、温度が〇〇度より低いところを探してみよう！」など家庭とつながれるようにする。

幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿	健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意識の芽生え	思考力の芽生え	社会生活との関わり	自然との関わり 生命尊重	数量・図形、文字等への関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現
----------------------	--------	-----	-----	--------------	---------	-----------	--------------	------------------	-----------	----------

平成30年1月30日(火曜日) 天候(晴)

【 雪の感触 】

戸外での雪あそびでは、寒さや雪の冷たさにまだまだ慣れていないNちゃん。雪の感触も感じてしまくて、じつりと雪あそびがしたいと思い、サンルームに雪を持ってきた。室内の心地良い空間に雪をおいた事により、シートの上に座りこんでも、冷たくなく機嫌良く雪をさわっています。

保育士が雪を積んでいると、タライの中から自分で雪をつかんで上にのせるNちゃん。

お部屋あそびでは積木を高く積み重ねるのが得意なNちゃんです。

右手の指をしっかりと開き手全体を使って雪を持っています。右手、左手、両方の手を使って慎重に雪をのせています。

積木よりも柔らかく、どんな大きさ、固さにも変化する雪。Nちゃん「オー！オー！」保「Nちゃん高いね！」「いいおい積めたね！」女子が大きな雪を手にとり慎重に積んでいくNちゃん。こわれども何度も挑戦し、じつりと雪の感触を味わうことができた。

身近な環境に好奇心を持って関わる=表現する力の基盤を培います。





0歳児 たんぽぽ組 1月 「雪の感触」

遊び(活動)の展開

戸外では、寒さや冷たさを感じて泣いていたNちゃん。サンルームで、タライの中に雪を入れて用意すると、Nちゃんはその場に座り込んで雪に手を伸ばし触っている。

保育士が、雪に触れ積んでいるのをそばで見ていたNちゃんは、自分でも上に雪を乗せ始めた。

積み木を積んで遊ぶことが好きなNちゃんは、雪を1つ1つ慎重に積んでいく。途中で壊れても、左右の手を交互に使い、何度も挑戦していた。

そのうちに、雪を積む量を考え、高く乗せていった。

Nちゃん高いね!!

オー！オー！

雪いっぱい積めたね!



保育者の関わり(ねらい、意図、環境)

寒すぎない環境の中で安心して遊び、雪の感触も味わってほしいと考えて、サンルームに雪を持ってきた。Nちゃんが雪に触り始めたので、どんな反応を示すか楽しみにしながら、目の前で雪を積んでみた。そこに続いて雪を乗せ、落ちては積み・・・を繰り返す様子をそばで見守る。高く積めた時、「オー！」「オー！」と言葉を発するNちゃんの気持ちに共感し、「雪、いっぱい積めたね。」「高いね。」と応答した。

考察(育ち・学び)

安心できる場所であれば、自ら手を伸ばし雪に触れることができた姿は、健やかに伸び伸びと育つ「身体感覚が育ち、快適な環境に心地よさを感じる」積み木を高く積み上げた時に声を発した姿は、身近なものに関わり感性が育つ「身体の諸感覚による認識が豊かになり、表情や手足、体の動き等で表現する」雪に触れたり、保育士を真似て積んだりする姿は、身近なものに関わり感性が育つ「見る、触れる、探索するなど、身近な環境に自ら関わろうとする」育ちにつながっている。また、壊れたり崩れたりする経験の中で、雪を掴む量、乗せる場所、力加減などを調節しているところから、後の、10の姿の「思考力の芽生え」という育ちにつながっている。

これからの保育

乳児は、体調など生理的なことに、遊ぶ意欲や集中力などが影響をうけるので、個々の欲求をしっかり把握し十分に満たせる環境を整える。

雪を使って、保育者や友だちと遊ぶ中で、変化する形のおもしろさを味わう。ちぎる、丸める、ひっぱるなど、手に力もついてくるので、小麦粉粘土や新聞など、手を加えると変化する素材を用意し、感触や変化を楽しむ。

5歳児・3歳児 10月 「順番やで～」

遊び（活動）の展開

5歳児のクリーム作りを見に来る3歳児が増えてきた。これに気づいた5歳児A子。クリーム作りをやめて、やりたい3歳児に言葉かけを始めた。

やりたい子が集まると、じゃんけんを提案し、勝った順番に、クリーム作りが始まった。

一緒にクリーム作りをしていた5歳児のB男とC男も加わり、時間を区切ったり、やり方を教えながらのクリーム作りが続いた。



やりたい人は並んで！
こっち、こっち！

じゃんけんできめるでな。

わーい！
やりたいな・・・

勝った子から並ぶで。

生クリーム屋さんのお客さん、多いなあ

もうすぐやだな

くるくるしたらふわふわや！

おいそうなクリームできてきたね

はい！
次の人と交代！

ゆいぐみさんありがとう

明日もしよな

またやりたい人は、後ろに並んでな。

保育者の関わり（ねらい、意図、環境）

石けんでクリームを作る楽しさや不思議さを感じてほしいと思い環境設定した。石けんの不思議さに夢中になった5歳児。そんな中、遊びに加わった3歳児。自分たちで、3歳児も参加できるように言葉かけ始めたので、保育者は言葉をかけずに、どのように遊びがひろがっていくのかを見守ることにした。

考察（育ち・学び）

3歳児を遊びに誘い、順序よく遊べるように言葉をかけられるところは「協同性」の育ちにつながっている。
順番を決めるのにじゃんけんを活用したり、平等に遊べるように時間を区切るところは、「思考力の芽生え」につながっている。
3歳児も遊びたいことを言葉で伝えたり、5歳児の話聞いて順序よく遊びに参加できたので「言葉による伝え合い」が見られた。

これからの保育

どうすればふわふわのクリームができてあがるのか、子どもたち自身で考えて工夫していけるように、材料や用具を整えるなど、環境構成を見直していきたい。
次の日につながる遊びに発展していけるように、楽しい遊びの共有の場であるふりかえりを充実させていきたい。

幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿	健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意識の芽生え	思考力の芽生え	社会生活との関わり	自然との関わり 生命尊重	数量・図形、文字等への関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現
----------------------	--------	-----	-----	--------------	---------	-----------	-----------------	------------------	-----------	----------

4歳児 ばら組 10月 「かまきり、ブクブクしとる」

遊び（活動）の展開

かまきりが大好きな4歳児。競い合うように、かまきりを捕まえては飼育ケースに入れて園に持ってきて、誰のが一番大きいのか見せあいつこをしていた。そんな中、A男の持ってきたカマキリに異変が・・・気づいたA男が友だちを誘い、観察が始まった。

その日に飼育ケースを大切に持って帰った4歳児だったが、同じくかまきりの卵の観察を続けている5歳児クラス。

卒園時に持ち帰り、「6月頃に生まれたら持ってきてあげる」と赤ちゃん誕生を楽しみにしている。



すごいね～。
大発見。
なにかわかる？

なんか、泡ブクブクしとる！
みんな、おいで

よく知ってるね。

これ、たまごやな。
見たことあるもん。

なんだか、わくわくするね。

まだブクブクしとるで

えっ！！
もううまれるの？

赤ちゃん、すぐうまれるのかなあ。

それはびっくり。
ゆっくり見てみようか。

あっ！なんか、たまごが動いたで！

みんなで見れるように幼稚園に置いておいてくれる？

足が見えた気がする！

大事やで持って帰るわ。

保育者の関わり（ねらい、意図、環境）

かまきりの産卵シーンを見られることは、とても貴重だと感じ、一人でも多くの子ども、またクラス・園全体に興味を広げれば・・・と思い、見やすいところに飼育ケースを設定した。園に置いておいてくれるように話をしたが、持って帰りた気持ちが強かったため断念した。この機会にもっといろいろな生き物に興味を持ってくれたらと考え、図鑑を並べたり、戸外での活動を増やした。

考察（育ち・学び）

いつもと違うかまきりの様子に気づき、不思議さを感じているところは、「思考力の芽生え」につながっている。
自分の発見を友だちに伝え、一緒に見て、自分の考えを伝えているところで、「言葉による伝え合い」が見られた。
かまきりの変化を感じ取り、どうなっていくのか興味をもっているところは「自然との関わり・生命尊重」につながっている。

これからの保育

年中組のかまきりは持って帰ってしまったが、年長組のかまきりを見せてもらいながら、生命誕生に向けての変化を共に楽しんでいきたい。
観察を続ける年長児の思いを大切にこみ取り、クラス・園全体に発信することで、朝来ならではの豊かな自然を生かしながら、生命の大切さを伝えられる保育を深めていきたい。

幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿	健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意識の芽生え	思考力の芽生え	社会生活との関わり	自然との関わり 生命尊重	数量・図形、文字等への関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現
----------------------	--------	-----	-----	--------------	---------	-----------	-----------------	------------------	-----------	----------

1年生・5歳児 連携活動 12月 「あきのおもちゃづくり」

保護者様 幼小連携のお知らせ

倉梯幼稚園

H29・12 倉梯小学校の一年生と “あきのおもちゃづくり”

平成29年11月22日（水）に倉梯幼稚園の年長児まつ組うめ組が倉梯小学校の一年生と“あきのおもちゃづくり”をしました。
これまでにも、近くにある大森神社へ一年生と一緒にどんぐり拾いや、いろんなあきを見つけに行ってきました。この日は顔馴染みの一年生とあって幼稚園のみんなはリラックスして学校という観念に捕らわれずおにいさん、おねえさんと一緒に楽しむことが出来ました。
倉梯小学校様、準備から設定まで大変お世話になりました。

これ、まえばくがひろったやつかな？

ふくろにいれよかなあ



なにをつくる？

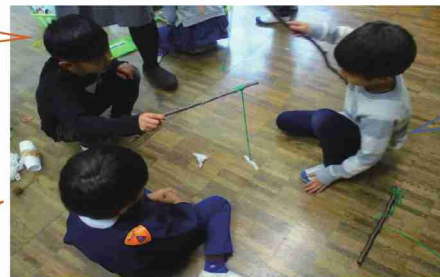
えっ?! これもいれる？

各教室に別れて各グループでいろいろな物を作っていました。その中で魚釣りゲームを作っていたグループがありました。最初は見るだけだった年長児も一年生に教えてもらいながら楽しんでいました。

こんなんするんやみときなよ

いわしやで、いわし

ひもがいるでえ



どうするん？木の棒とってきたけど

ほんで、つぎどうするん？



一年生とは10月のどんぐり拾いで一緒だったので、学校という環境が普段の幼稚園とは違ってスムーズにとけ込むことが出来ました。秋の自然素材を使ってのおもちゃ作りという共通の目的をもって、お互いに考えを出し合い工夫したり協力したりしていろいろなおもちゃ作りに取り組んでいたように思います。
素材を手に取り何に向いているかなど一年生に教えてもらいながら楽しく遊べた年長児でした。今度は幼稚園で、年少組さん達と一緒に色々な素材で作品作りしてくれると思います。

1年生・5歳児 連携活動 10月下旬 「どんぐりみ〜つけた」

遊び（活動）の展開

大森神社は3才児の頃から園外保育でよく散歩にいらしているのので何の抵抗もなく、一年生と交流出来た。

落ちていたどんぐりやまつぼっくり、木の実と一緒に拾う中で会話も弾んだ。

どんぐりを拾う個数競争、変形気味な葉っぱを見せ合いっこしている様子や笑ったりする和やかな場面が見られるようになった。一年生を尊敬の眼差しでみる年長児は、秋の素材をいっぱい見つけ、今後の交流会時や幼稚園の作品展時に活かそうと意欲満々であった。

この活動の後11月22日に一年生とのおもちゃ作りへと展開した。

ふうん

一年生のおにいちゃんにいろいろ教えてもらって少し緊張気味のY児

これぼくつくったふくろや

うん

どんぐりいれるふくろや

こんだけたくさんみつけられるかなあ？

はっぱもみつけよか



ホラ、どんぐり

わあ、すごいいっぱいやね

1こ2こ...

あっ、おちたで.....



「どんぐりあったで」“ホラホラ”と一年生に見せている光景が微笑ましい

保育者の関わり（ねらい、意図、環境）

一つには、秋の自然を取り入れての製作活動をねらいとし、また一年生と交流する中で、幼小の連携を保ち合い、幼稚園児は自分の思いや考えを一年生と活動する中で発揮出来たらと思う。保育者は年長児が楽しんで活動できるよう言葉がけし、一年生と一緒に自然の素材を見つけるという共通の目的を持つことで協同性を培い思考力を高め合う。

考察（育ち・学び）

一年生に声をかけリードしてもらったところ、信頼と安心感を抱き一年生に自分の考えを言っている姿が見られた。自然を生かした活動が心に豊かさをもたらすとも考えられる。これは幼稚園においても年少の子に優しくしたり、また自然物や廃品を使った物から創造性を培うことが出来た。

これからの保育

子ども達が自らあそびを見つけ、自らの発想で物事を進めていけるよう、多くの友だちと関わったり自然と触れ合いながら、体全身で色々な表現が出来ればと思う。視野を広げる環境面での配慮や日頃の子ども達のつぶやきや発想に視点を置いて子ども達と共に学んでいきたい。

自然のふしぎ..... 秋

シオン幼稚園 今年度(10月)

ねらい.
自然の変化に興味を持ち、発見や探索をくり返し他の幼児と試行錯誤をしながら、活動を展開する楽しさや共通の目的の実現する喜びを味わうことができるようにする。

きっかけ
秋になると園庭の桜の木、柿の木、いちじくの木から葉っぱが落ちてくる。葉っぱを集めてごっこ遊びに使う。散歩に出かける時、子どもたちが拾い集めていた。アサガオ、ひまわり、おしろい花が種をつける。種に興味を持つ。

興味

あ、穴あいてる中に虫がいるよ!!

もっと大きいのかな...

発見

黒と黄みどりの種、黒いのはかたい。

疑問

皮むいたら白い出てきたこれ何??

えっ!! ぼくもやってみよう!!

すご〜い!! 白い粉出てきた。

考察(育ち・学び)

季節の移り変わり、散歩先や園庭のいろいろな自然の様子に気づき、友達や保育者に言葉で伝え合う姿が見られた。(言葉による伝え合い)「これ、どうなるかな?」「これ、何やる?」と不思議に思うことで、試してみたり、比べてみたりしながら、楽しい発見をしている。(思考力の芽生え) 見つけたものや発見したことを、友達と共有し、ごっこあそびへと展開する協同性の育ちにもつながっている。(協同性)

今後の保育

種を集め、その種の不思議から「ぼくも、やってみよう」という言葉が出たり、発見から「すご〜い」と驚きの言葉が出てきた。その様な様子は、友達との共感が深まり「もっと○○しよう」「こんなのできたよ」等どんどんあそびがすすみ、「ハロウィンパーティーにしたい」との子どもたちの言葉が出てきた。アイデアを大切に、実現できるような環境を工夫する。

4歳児 ほし組 10月 「自然の不思議・・・秋」

遊び(活動)の展開

秋になると園庭の桜の木、柿の木、いちじくの木から葉っぱが落ちてきた。その葉っぱを集めて、ごっこ遊びに使用。また、庭に咲いていたあさがお、ひまわり、おしろい花が種をつけた。その種を集めていたが、集めるだけでなくその種の中身にも興味を持ち始めた。



あつた〜黒いのが種

黒と黄みどりの種、黒いのはかたい

もっと集めよう



皮むいたら白い出てきたこれ何??

えっ!! ぼくもやってみよう!!

すご〜い!! 白い粉出てきた



もっと葉っぱを入れよう

野菜たっぷりスープ(葉っぱ・種入り)できたよ

ハロウィンパーティーしよう

保育者の関わり(ねらい、意図、環境)

自然の変化に興味を持ち「もっと違う形の葉っぱ集めたい」「色のきれいな葉っぱもほしい」という言葉から散歩に出かける。どんぐりも持ち帰り、園庭の種も合わせ他の幼児と試行錯誤をしながら、活動を展開する楽しさや「これは何?」の言葉から疑問を持ったり発見したり、共通の目的や喜びを味わってほしいと考えた。

考察(育ち・学び)

散歩先や園庭の様子から、木の葉や植物の種等、自然の関わりを通し、いつもと違った様子に気づいている。(自然との関わり) また、その気づきを友達や保育者に言葉で伝え合う姿が見られた。(言葉による伝え合い)「これ、どうなるかな?」「これ、何やる?」と不思議に思うことで、試してみたり、比べてみたりしながら、楽しい発見をしている。(思考力の芽生え) 見つけたものや発見したことを、友達と共有し、ごっこあそびへと展開する協同性の育ちにもつながっている。(協同性)

これからの保育

種を集め、その種の不思議から「ぼくも、やってみよう」という言葉が出たり、発見から「すご〜い」と驚きの言葉が出てきた。その様な様子は、友達との共感が深まり「もっと○○しよう」「こんなのできたよ」等どんどんあそびがすすみ、「ハロウィンパーティーにしたい」との子どもたちの言葉が出てきた。アイデアを大切に、実現できるような環境を工夫する。

幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿	健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意識の芽生え	思考力の芽生え	社会生活との関わり	自然との関わり 生命尊重	数量・図形、文字等への関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現
----------------------	--------	-----	-----	--------------	---------	-----------	--------------	------------------	-----------	----------

1年生・5歳児 つながり活動 「 さつまいも 」

園庭の木々の石葉もすっかり落り、ますます緑が濃くなりました。それに合わせるように、子どもたちもいよいよ大盛り上がりです。新人園児にとって、はじめての園生活がスタートした。今では一人で行けるようになってきました。また、園庭の木々は、これからの季節、戸外で元気に遊ぶ子どもたちを日陰に守ってくれるでしょう。

さて、園庭では、昨年度から幼児教育と小学校教育をつなぐ連携相手となる「保幼小連進歩校・園」を認定し、すべての小学校で保育園(園)・幼稚園とそれぞれの教育目標や内容の相互理解を深め、年間を通して計画的・継続的に推進してきています。本園は、昨年度同様、校区にある余内小学校と連携します。

今年度の取組として、5月26日に余内小学校の1年生1組の児童が幼稚園に来てくれて、生活科で学んだアサガオ栽培を生かして、園児と一緒にポットにアサガオの種まきをしました。今回は、6月7日に大きく育ったアサガオの苗を花壇への移植やサツマイモの苗植えに幼稚園を訪問していただきます。

また、余内小学校の先生方も、6月16日・17日に、幼稚園の保育の様子を参観に来られる予定です。子どもたちだけでなく、教職員もたくさん交流して、お互いの教育内容を理解し合い、子どもを中心とした遊びがより充実していくことが、幼稚園と小学校が切れ目のない高い教育を推進していくうえで重要なことだと思っています。




第4回 つながり活動

7月13日(木)、余内小学校1年生1組のお友達が幼稚園に来てくれました。つながり活動も4回目となりすっかりなつかしい「なかま」と一緒に活動を開始しました。はじめは、「あさがあこりやこりや」という手遊びを一緒にし、今日の予定を聞いてから、外に出てアサガオやサツマイモの観察や草取りをしました。

サツマイモ畑は、サツマイモが見えないくらいに草がたくさん生えているので、がんばって草取りをしました。すっかりきれいになった畑で、植えた時よりも芽が伸びるのび、たくさんの葉をつけてるサツマイモに「秋にはおいしいお芋がたくさんできますように!」とお願いをしました。外は、真夏のカンカン照り、20分ほどの観察や草取り作業でしたが、汗びしょになりました。

部屋に帰り、水分補給をしてから観察したことを発表しました。そして最後にホールに移動し、「じゃけん列車」を楽しみ、「ありがとうのうた」を歌って活動を終わりました。また、2学期の交流を楽しみにしています。





余内小学校 1年生1組との第6回つながり活動 11月21日

Aさんは、つながり活動で余内小学校に行きました。今回は、10月17日の第5回つながり活動で収穫したサツマイモを運んで焼く作業をしました。

1年生1組のお友達も、事前にサツマイモを洗ったり切ったりしてくれていたため、ホットプレートで焼くところから一緒に活動しました。

ホットプレートにイモをならべてしばらくすると、焼いたイモのにおいが体育館に広がってきました。竹串を使って焼き加減を確認しながらバターを加えて出来上がりました。

グループに分かれてみんなでいただきました。「ホクホクや。」「外はカリカリやけど中はやわらかいわ。」などいろいろな感想のいい焼いたイモに子どもたちも大満足でした。

昼食は、Aさんとお弁当、1年生は給食を体育館で一緒に食べました。今回の活動は、1月下旬の予定です。





つながり活動 (余内小学校1年生1組との交流) 6月7日(水)・9日(金)

6月7日(水)、Aさんは、先日種まきをしたアサガオの育ち具合を見せたり、9日にするサツマイモの苗の植え方を勉強するために余内小学校に行きました。到着後、1年生の「なかま」のお兄さん、お姉さんと一緒に、学校探検を楽しみました。2階、3階と階段を上って他の学年の教室に行ったり、図書室に行ったりと、ワクワク、ドキドキの探検を楽しみました。そのあと、生活科の授業と一緒に受けて、9日にするサツマイモの苗の植え方を勉強しました。1年生と同じ45分間の授業時間、真剣にしっかりと学習するAさんの姿に成長を感じたひと時でした。

9日(金)、ポットで育てていたアサガオの苗を花壇に移植しました。そして、畑に、サツマイモの苗を植えました。Aさんは、苗が根付くまで、枯れ草を根元に置いたり、水やりをしたり毎日お世話をしました。おかげでしっかりと根付いたようです。1年生と一緒にする秋の収穫祭が楽しみです。





10月17日(水) 第5回つながり活動

余内小学校1年生1組のお友達が幼稚園に来てくれました。つながり活動も5回目となり、すっかりなつかしい「なかま」と5月に植えたサツマイモ畑とアサガオの種を取りました。これまでの活動を振り返った後、早速サツマイモ畑に行き、一緒に植えたサツマイモを掘り始めました。しばらくすると「あった。大きいお芋!」とあちらこちらで歓声が上がりました。収穫したサツマイモは、早速、蒸し芋にしてみんなで収穫を祝いながらいただきました。

最後に、Aさんから1年生のお兄さんお姉さんに、一緒に植えたアサガオで作った押し花をお礼にプレゼントしました。今回は、余内小学校を訪問する予定です。




第7回つながり活動 1月22日

余内小学校の1年生1組のお兄さんお姉さんを迎えて、Aさんは、今年最後のつながり活動を楽しみました。一緒にアサガオやサツマイモを育てたり、収穫したサツマイモで「焼いもパーティー」をしたりとたくさん楽しい思い出ができました。この取り組みで学んだことは、これからの小学校生活の中でしっかりと活かされていくことでしょう。1年間ありがとうございました。






1年生・5歳児 つながり活動 11月 「 なかまと一緒にさつまいもを焼こう 」

遊び(活動)の展開

【活動の流れ】

1. 始めの挨拶
2. 今日の活動を知る
3. 調理を始める
4. 食べる準備をする
5. 食べながら交流する
6. 片付ける
7. 振り返りをする
8. 終わりの挨拶

年長児 なかなか焼けないあー・・・

1年生 ふた閉めたら はやく出来るかも しれんで。



どうなったら 出来上がりって わかるの?

年長児 白から黄色にかわると!

1年生 色が変わったら 出来上がりやでー。

年長児 いっぱい たべたいな・・・

本当に 出来るかなー?

1年生 竹串がささったら 出来上がりやで。

年長児 ささったー 出来上がりや!

1年生 みんな同じずつ 食べれるように 数えてわけよう。




保育者の関わり(ねらい、意図、環境)

- ・なかまと一緒に、調理することを楽しみ、味わう。
- ・さつまいもの色、形、におい、熱したときの発見などを楽しむ
- ・焼き上がりを確かめる方法が年長児には、理解できていないようだったので保育者が1年生に質問し、コミュニケーションがとれるようにした。

考察(育ち・学び)

- ・なかまとの関わりから、どうしたら早く火が通るか、また、出来上がりを確かめる具体的な方法を学んだ。
- ・数えながら、わかる方法を知った。
- ・一緒に調理する中で、収穫の喜びや調理の楽しさを共有できた。

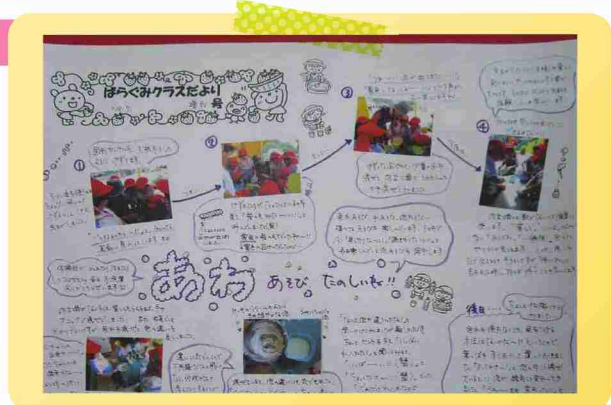
これからの保育

- ・なかまと一緒に活動する中で、喜びや楽しさを感じながら、生きる力を培っていくことが出来るような体験を重ねていく。

4歳児 ばら組 7月 「泡づくり」

遊び（活動）の展開

年長児の色水あそび・泡遊びを見たり、一緒に遊んだりする中で自分たちでもやってみたくて興味広がっていく。
泡の作り方を年長児に真剣に聞き、自分たち独自でも混ぜ方や石鹸水の濃さ、個体で泡を作ったり、石鹸をけずったりとアレンジしていくと、ふわふわの泡やすぐに消えてしまう泡などができた。
友達との違いに気付く子や花・葉っぱをいれて色のついた泡を楽しむ子どもでできた。
また、一日おいておいた泡がどう変化したかにも興味を示し始めた子どもでできた。



もっと混ぜてみよう!



うわー! あわができた



こっちの方がふわふわや!

ほんまやな! なんで違うんやろ?

〇〇ちゃんのと私のと泡が違うー!

すごい! 上手にできてるやん

手で混ぜてもできたで!

保育者の関わり（ねらい、意図、環境）

色水に泡を乗せてみたり、砂で作ったカップケーキにクリームのようにトッピングして遊ぶと考え、泡作りの道具を用意した。また感触を楽しんだり、水の量により、泡の出来上がりが違うことにも気付く友達と共有するきっかけになって欲しいと考え、一緒に作ったり声を出して聞いたりした。

考察（育ち・学び）

水の量によって違いがあることに気づいたり、予想したり工夫したりをみんなで楽しんでいる姿から、「協同性」「思考力の芽生え」がみられる。経験したことを言葉で伝えたり、小さいクラスの子に教えてあげたり「言葉による伝え合い」が見られた。絵の具で色をつけていたが、葉っぱや花、土を混ぜても色がつけられることに気づき、「自然との関わり」につながっている。
のびのびと開放的に遊ぶ姿は「健康な心と体」にもつながっていると考え。

これからの保育

自然物を混ぜて、色の泡作りを楽しんだり一日置いておくと次の日どうなっていたかにも興味を示しているので取り置きできる環境を整える。気付いたことを友達に伝えることで、さらに遊びが広がったり、深まったりするよう、意識しながら関わるようにする。子どもたちが楽しく遊び込めた経験から、さらにイメージをふくらませお話の世界を作り、発表会などの題材にも持っていければと思う。そのために沢山言葉がけをしたり、子どもたちの思いに共有しながら関わっていく。

- 幼児期の終わりまでに育てほしい10の姿
- 健康な心と体
- 自立心
- 協同性
- 道徳性・規範意識の芽生え
- 思考力の芽生え
- 社会生活との関わり
- 自然との関わり 生命尊重
- 数量・図形、文字等への関心・感覚
- 言葉による伝え合い
- 豊かな感性と表現

5歳児 すみれ組 11月 「山あそび」

遊び（活動）の展開

10月になり、山あそびが解禁になると次々にでかけていき、山登りや木の実や枝・落ち葉などで遊びはじめた。
そのうちに山に秘密基地を作る事になり、どの場所に作るか、何で作るかなど、話したり考えたりするようになった。材料を用意すると、それをどのように使うかなど、さらに相談し、クラスみんなで作り始めた。
そして、必要な材料や道具を考えては自分たちで用意して作っていった。子ども同士、いろいろ話しながら作りあげていき、毎日繰り返し遊ぶ中でできた基地をさらに装飾したり、掃除したり大切にすることもみられた。



保育者の関わり（ねらい、意図、環境）

子どもたちの遊びが進んでいくのを見守りながら一緒に遊ぶ。沢山集めた木の実を数えるのに付き添って数え切った時の達成感を共感する。基地を作りたいという思いが出てきたのですだれや木片、ひもを用意し自由に使えるようにしておく。振り返りで子どもの思いややりたいことを知りどうすれば遊びが発展していくのかを考え実践していく。

考察（育ち・学び）

友だちと相談しながら秘密基地を作っていく様子には、10の姿の「協同性」や「自立心」が見られ、「言葉による伝え合い」も充分にあった。また、木の枝の形を見て、何に利用できるかを考える様子は「自然との関わり」だったり、木の実をたくさん拾って、数を考えるのを楽しんだり、「数への関心」や考える力も見られた。そして何より、毎日体を動かしてのびのび遊べる様子は意欲的であり、「健康な心と体」そのものであった。

これからの保育

もっと山で遊び込め、発展できるように子どもたちの言葉や様子を観察し、環境構成したり、次の遊びに発展していけるようなきっかけとなる言葉掛けをしていく。

- 幼児期の終わりまでに育てほしい10の姿
- 健康な心と体
- 自立心
- 協同性
- 道徳性・規範意識の芽生え
- 思考力の芽生え
- 社会生活との関わり
- 自然との関わり 生命尊重
- 数量・図形、文字等への関心・感覚
- 言葉による伝え合い
- 豊かな感性と表現



身近に骨折をした人がいて、「ほねって何?」「こわい」という疑問や意見がでてきた。『思考の力芽生え』につながると思い、クラスで「ほね」の本の読み聞かせを行った。



興味を持ち、何度も「ほね」の本を読むA

満3歳児クラス そら組 2月 「なんだろう?」

遊び(活動)の展開

Aちゃんは最近身近に骨折をした人がいたことから、園にあった「ほね」の本に興味を持ちよく見ていた。一方、園庭に積もった雪で、雪遊びを楽しんでいるTくん。雪をつかんだり、踏んだり、寝転んだりと全身で雪の感触を味わっている。そんな中、屋根の下の雪のない場所へ行くと長靴の足あとの雪の塊が一部分落ちてきていることに気がついた。

T:ん?
これなんだ!?

なんだろうね?
何のかたちかな?

Tくんが面白いもの
見つけたんだって。
Aちゃんも見てみる?



T:ほら、
なんだろうね。

なんだろうね。

本当だ。絵本の
がいこつさんの
かたちに似ているね。

T:あはは。
ほねほね

A:がいこつやで

T:がいこつ?

A:ほねほね。



保育者の関わり(ねらい、意図、環境)

何のかたちか、なぜこうなったかなど、考えたり、気づいたりしてほしいという意図から、答えを明らかにせず、疑問に共感し、寄り添った。Tの気づきを広め、様々な考えや意見が出ることをねらいとし、すぐに答えなのでそうな大きいクラスの子ではなく、同じ満3歳児のAに声をかけた。

考察(育ち・学び)

雪という「自然との関わり」により、身近な事象への関心が高まっている。また、足あとのかたちが何か考えることは「思考力の芽生え」につながっている。絵本で知ったことや、自分の考えを言葉で表して、「言葉による伝え合い」の育ちにつながっている。

これからの保育

季節ならではの遊びができる時間を十分にとり、様々な体験や思考する機会をつくっていく。雪がとけたら、土がぬれて足あともつきやすくなるので、問いかけてみたり、また、発見できるような声かけをたくさんしていく。

幼児期の終わり
までに育って
ほしい10の姿

健康な
心と体

自立
心

協
同性

道徳性・規範
意識の芽生え

思考力の
芽生え

社会生活
との
関わり

自然との
関わり
生命尊重

数量・図形、
文字等への
関心・感覚

言葉に
よる
伝え合い

豊かな
感性
と表現

もみじ組クラスだよりNO. 11

H30. 2. 2

舞鶴幼稚園 3歳児もみじ組

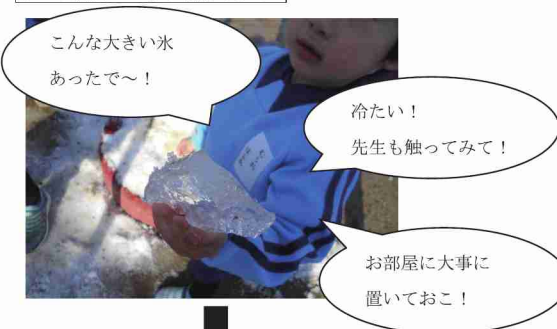
3学期が始まってから早くも1ヶ月が経ちました。寒くなくても元気いっぱい戸外で遊び、冬の自然に興味たっぷりの子どもたちです。

息ハ～ってしたらあったかくなるよ



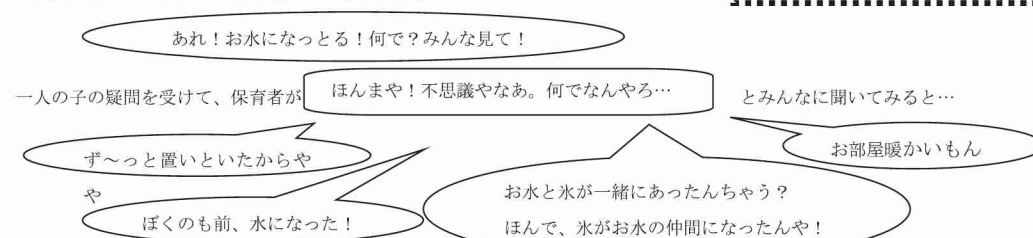
自分の思いや気づいたことを友達同士で伝え合う姿が増えました。
(言葉による伝え合い)

氷って素敵!でも不思議やなあ...



自分なりの表現で気づいたことを伝えようとしています。
(豊かな感性と表現)

お部屋に置いておき、しばらく経ってから見てみると...



一つの疑問・投げかけから、保育者もびっくりするぐらい本当にたくさんの考えが子どもたちから出てきました。ついつい正しい答えにすぐにながさきがちになってしまいますが、そうではなく、“何でかな?”“不思議やなあ”と関心をもったり、“こうかもしれない!”と自分なりに考えてみたり、そして考えたことを自分なりの言葉で表現して相手に伝えようとする姿を大切に受け止められる関わりができたかな、と思っています。

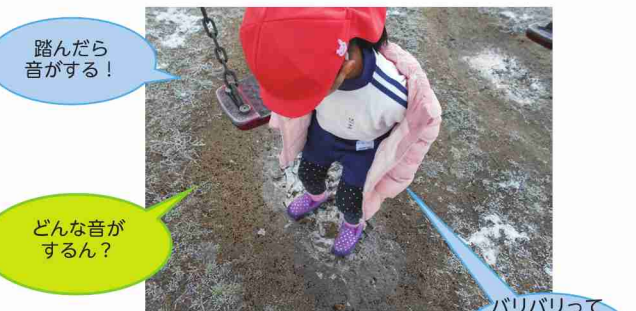
(思考力の芽生え、言葉による伝え合い)

※子どもたちの育ちや身に付けた力を()の中に短い言葉で示しています。(例:言葉による伝え合い)

3歳児 もみじ組 2月 「こおりってつめた〜い! パリパリっていった!」

遊び(活動)の展開

寒い日が続いていたある日、いつも遊んでいるブランコの下にある水たまりが凍っていた。それまでに遊びの中で園の池が凍っているのを年長児と一緒に触ったりつついたりしていたので水たまりが凍っているのを見て氷だと気づき、触り始めた。



こんな大きい氷あったで〜



その後、保育室に置き、しばらく経ってから見ると水になっていた。「なんでやる?」と問いかけると、子ども達から、「ずっと置いとったから」「水と氷と一緒にあったんちゃう、ほんで氷がお水の仲間になったんや」と、自分の考えを言い始めた。

保育者の関わり(ねらい、意図、環境)

毎日友達と一緒に池の氷を触ったり、つついたりして冬の自然と関わる経験をしていることから、いつも遊ぶ遊具の下にも氷がはっていることに気付いてほしい、そして、触って、冷たさや形、音などから感じながら自分の感じたことを言葉にして伝え合ってくれないか、また、氷の性質に興味も持ってほしいと考えて、言葉をかけてみた。

考察(育ち・学び)

冬の事象(氷)の物の性質などを感じ取ったり、気付いたり、冷たさや音を自分なりに言葉にして表現しようかと考えたりしている姿は、身近な事象に積極的に関わり、物の性質や仕組みを感じたり、気付いたりする「思考力の芽生え」、自然に触れて体験する中での自然の変化を感じ取り、関心を高める「自然との関わり」、心を動かす出来事に触れ感性を働かせる中で感じたことや考えたことを自分なりに表現する「豊かな感性と表現」の学びにつながっている。

これからの保育

引き続き氷さがしができるようにタイヤや入れ物等を置き環境を整える。氷ができるタイミングで誘いかけ、どんなところに行けるのかなど子どもたちが気づけるようにしたり、さわってみて冷たさや音、大きさなど変化していく様子(溶けていく)に興味を持てるように関わっていく。また、子どもが氷の変化を見て、気づいたことや不思議に思ったことを友達につなげるために、ドキュメンテーションにして知らせていく。

幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿	健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意識の芽生え	思考力の芽生え	社会生活との関わり	自然との関わり 生命尊重	数量・図形、文字等への関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現
----------------------	--------	-----	-----	--------------	---------	-----------	--------------	------------------	-----------	----------

